

平成23年度  
**博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要**

[採択時公表]

機関名	広島大学	機関番号	15401
1. 全体責任者 (学長)	(ふりがな) (あさはら としまさ) 氏名・職名 浅原 利正 (広島大学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) (おかもと てつじ) 氏名・職名 岡本 哲治 (広島大学理事・副学長(社会連携・広報・情報担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) (かみや けんじ) 氏名・職名 神谷 研二 (原爆放射線医科学研究所・教授)		
4. 申請類型	E <複合領域型(横断的テーマ)>		
5.	プログラム名称	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム	
	英語名称	Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative) for Renaissance from Radiation Disaster	
	副題	放射線災害による人と社会と環境の破綻からの復興を担うグローバル人材養成	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(医学、歯学、保健学、理学、工学、文学、農学、学術、マネジメント)		
7. 主要分科	(① 内科系臨床医学 ) (② 環境学 ) (③ 心理学 ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	ゲノム科学、基礎医学、境界医学、社会医学、外科系臨床医学、歯学、健康・スポーツ科学、資源保全学、物理学、地球惑星科学、複合化学、機械工学、総合工学、基礎生物学、農芸化学、水産学、境界農学、経済学、哲学		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	放射線科学、消化器内科学、血液内科学、小児科学、環境動態解析、環境影響評価・環境政策、放射線・化学物質影響科学、社会心理学、臨床心理学、ゲノム医科学、人体病理学、細菌学(含真菌学)、医療社会学、公衆衛生学・健康科学、整形外科、救急医学、外科系歯学、応用健康科学、資源保全学、素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理(実験)、固体地球惑星物理学、気象・海洋物理・陸水学、環境関連化学、機械材料・材料力学、原子力学、地球・資源システム工学、生体・環境、生物多様性・分類、食品科学、水産学一般、環境農学、経済政策、哲学・倫理学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻、医歯薬学総合研究科・展開医科学専攻、総合科学研究科・総合科学専攻、文学研究科・人文学専攻、社会科学研究科・マネジメント専攻、理学研究科・物理科学専攻、理学研究科・化学専攻、工学研究科・機械システム工学専攻、工学研究科・機械物理工学専攻、生物圏科学研究科・生物機能開発学専攻、生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻、保健学研究科・保健学専攻		
10. 共同教育課程を構想している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画または構想する場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	福島大学、福島県立医科大学、独立行政法人放射線医学総合研究所、財団法人放射線影響研究所		

(機関名:広島大学 申請類型:複合領域型(横断的テーマ) プログラム名称:放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム)

## 15. プログラム担当者

計 39名

※他の大学等と連携した取組(共同申請を含む)の場合:申請(基幹)大学に所属するプログラム担当者の割合 [ 89.7 % ]

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成24年度における役割)
(プログラム責任者) 岡本 哲治	オカモト テツジ	56	理事・副学長(社会連携・広報・情報担当)	外科系歯学 歯学博士	プログラム責任者 放射能環境保全コース担当
(プログラムコーディネーター) 神谷 研二	カミヤ ケンジ	60	原爆放射線医学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授、兼 医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	放射線障害医学、 放射線生物学 医学博士	プログラム運営責任者 放射線災害医療コース担当
稲葉 俊哉	イハバ トシヤ	52	原爆放射線医学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授、兼 医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	血液学、分子生物学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当 (コースリーダー)
静間 清	シマ マキシ	62	工学研究科・機械物理工学専攻・教授	環境影響評価・環境政策 理学博士	放射能環境保全コース担当 (コースリーダー)
坂田 桐子	サカタ キリコ	46	総合科学研究科・総合科学専攻・教授	社会心理学 博士(学術)	放射能社会復興コース担当 (コースリーダー)
細井 義夫	ホソイ ヨシオ	51	原爆放射線医学研究所・放射線災害医療研究センター・教授、兼 医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	放射線科学 医学博士	放射線災害医療コース担当
越智 光夫	オチ ミツオ	58	医歯薬学総合研究科・展開医科学専攻・教授	再生医学、軟骨再生外科 医学博士	放射線災害医療コース担当
松浦 伸也	マツウラ シンヤ	50	原爆放射線医学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授、兼 医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	遺伝医学、放射線生物学 医学博士	放射線災害医療コース担当
瀧原 義宏	タキハラ ヨシヒロ	56	原爆放射線医学研究所・放射線災害医療研究センター・教授、兼 医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	血液学、幹細胞生物学 医学博士	放射線災害医療コース担当
本田 浩章	ホンダ ヒロアキ	49	原爆放射線医学研究所・放射線障害機構研究部門・教授、兼 医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	発生生物学 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
東 幸仁	ヒガシ ユキヒト	49	原爆放射線医学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授、兼 医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	循環器内科 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
永田 靖	ナガタ ヤスシ	53	医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	放射線腫瘍学 医学博士	放射線災害医療コース担当
粟井 和夫	アライ カズオ	50	医歯薬学総合研究科・展開医科学専攻・教授	放射線科学 医学博士	放射線災害医療コース担当
谷川 攻一	タニガワ コウイチ	54	医歯薬学総合研究科・展開医科学専攻・教授	救急災害医療、心肺蘇生法 博士(医学)	放射線災害医療コース担当
島田 義也	シマダ ヨシヤ	53	独立行政法人放射線医学総合研究所・プログラムリーダー	放射線発がん 博士(理学)	放射線災害医療コース担当
安村 誠司	ヤムラ セイジ	52	福島県立医科大学・医学部公衆衛生学講座・教授	疫学、公衆衛生学 医学博士	放射線災害医療コース担当
利島 保	トシマ タモツ	67	広島大学・名誉教授	実験心理学 文学博士	放射線災害医療コース担当
遠藤 暁	エントウ サトル	47	工学研究科・機械物理工学専攻・准教授	環境影響評価・環境政策 博士(理学)	放射線災害医療コース担当
中島 覚	ナカシマ サトル	52	自然科学研究支援開発センター・アイソトープ総合部門・教授、兼 理学研究科・化学専攻・教授	放射化学 理学博士	放射能環境保全コース担当
深澤 泰司	フカザワ ヤスシ	42	理学研究科・物理学専攻・教授	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理学 博士(理学)	放射能環境保全コース担当
澤 俊行	サキ トシユキ	63	工学研究科・機械システム工学専攻・教授	機械材料・材料力学 工学博士	放射能環境保全コース担当
田中 万也	タナカ マンヤ	34	サステナブル・ディベロップメント実践研究センター・特任講師	地球化学 博士(理学)	放射能環境保全コース担当
奥田 敏統	オクダ トシノリ	54	総合科学研究科・総合科学専攻・教授	生態・環境、資源保全学 理学博士	放射能環境保全コース担当
長沼 毅	ナガノ ユキ	49	生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻・准教授	生物海洋学、微生物生態学 理学博士	放射能環境保全コース担当
渡邊 明	ワタナベ アキラ	62	福島大学・理事・副学長	気象学 理学博士	放射能環境保全コース担当
加藤 範久	カトウ ノリヒサ	59	生物圏科学研究科・生物機能開発学専攻・教授	食品科学 農学博士	放射能環境保全コース担当
菅井 基行	スガイ モトユキ	52	医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	免疫学、形態系細菌学 歯学博士	放射能環境保全コース担当
小笹 晃太郎	オササ ヒロタロウ	54	財団法人放射線影響研究所・広島疫学部長	疫学 医学博士	放射能環境保全コース担当
浦 光博	ウラ ミツヒロ	55	総合科学研究科・総合科学専攻・教授	社会心理学 博士(社会学)	放射能社会復興コース担当
浦邊 幸夫	ウラベ ユキオ	51	保健学研究科・保健学専攻・教授	整形外科学 博士(医学)	放射能社会復興コース担当
岩永 誠	イワナガ マコト	51	総合科学研究科・総合科学専攻・教授	実験心理学 学術博士	放射能社会復興コース担当
戸田 常一	トダ ツネカズ	59	社会科学研究科・マネジメント専攻・教授	経済政策 工学博士	放射能社会復興コース担当

(機関名:広島大学 申請類型:複合領域型(横断的テーマ) プログラム名称:放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成24年度における役割)
杉浦 義典	スギウラ ヨシノリ	37	総合科学研究科・総合科学専攻・准教授	臨床心理学 博士(教育学)	放射能社会復興コース担当
山内 廣隆	ヤマウチ ヒロカ	62	文学研究科・人文学専攻・教授	哲学・倫理学 博士(文学)	放射能社会復興コース担当
小林 正夫	コバヤシ マサオ	57	医歯薬学総合研究科・展開医科学専攻・教授	小児科学 医学博士	放射能社会復興コース担当
安井 弥	ヤスイ ヲタル	55	医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	人体病理学 医学博士	放射能社会復興コース担当
田代 聡	タシロ サトシ	49	原爆放射線医科学研究所・放射線障害機構研究部門・教授、兼 医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	生化学、分子生物学 博士(医学)	放射能社会復興コース担当
田中 純子	タナカ ジュンコ	53	医歯薬学総合研究科・展開医科学専攻・教授	衛生学、公衆衛生学・健康科学 医学博士	放射能社会復興コース担当
茶山 一彰	チャヤマ カズアキ	55	医歯薬学総合研究科・創生医科学専攻・教授	消化器病学、肝臓病学 博士(医学)	放射能社会復興コース担当

(機関名:広島大学 申請類型:複合領域型(横断的テーマ) プログラム名称:放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム)

**リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性**

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

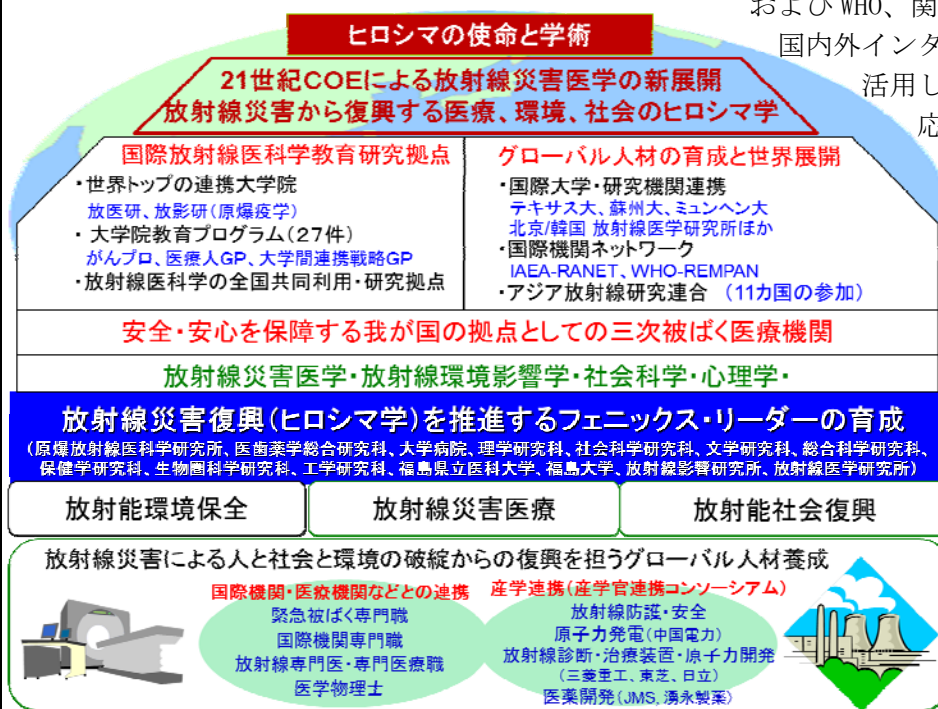
広島大学は、世界で最初の被爆地に誕生した総合大学であり、理念5原則(平和を希求する精神、新たな知の創造、豊かな人間性を培う教育、地域社会・国際社会との共存、絶えざる自己変革)のもと、広島原爆被害からの復興を支えて来た。特に、原爆放射線医科学研究所(原医研)は、原爆医療を基盤に放射線影響に関して世界をリードする研究成果を挙げており、医歯薬学総合研究科や病院とともに被爆者医療を担う医療人を養成してきた。また、21世紀COEプログラム「放射線災害医療の先端的研究教育拠点」では、ゲノム障害科学を基盤とした新しい放射線災害医療学を切り開き、放射線影響・医科学研究の全国共同利用・共同研究拠点としても放射線影響関連研究者の育成・支援に取り組んでいる。さらに、広島大学は「西日本ブロックの三次被ばく医療機関」として、我が国の緊急被ばく医療活動を展開すると共に、国際的な緊急被ばく医療ネットワークである国際原子力機関(IAEA)のRANET及びWHO-REMPANに参加し国際的な活動にも取り組んできた。

平成23年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災と、それに続く福島第一原子力発電所事故を受け、日本は初めての原発災害を経験している。広島大学は、三次緊急被ばく医療機関として、延べ1,000名近くの「緊急放射線被ばく医療援助チーム」を福島県に派遣し、被ばく傷病者搬送や住民被ばく管理など緊急被ばく医療体制の確立に指導的役割を果たしている。

原発災害では、被ばくによる直接の人体障害や環境放射能汚染だけでなく、環境放射能汚染に対する国民の不安とストレスの増大により、結果的に人や社会までもが破綻されることが明らかとなった。

本リーディングプログラムでは、原爆からの復興を支えた広島大学の実績と経験を生かして、医学、環境学、工学、理学、社会学、教育学、心理学、などの各専門学術分野を結集し、「放射線災害復興学」を確立し、放射線災害から生命を護る人材、放射能から環境を護る人材、放射能から人と社会を護る人材を育成する。本プログラムでは、分野融合型専門教育として、放射線災害医療コース、放射能環境保全コース、放射能社会復興コースを置き、共通科目、専門プログラム、コースワークとして、ヒロシマ・フェニックストレーニングセンター(HiPTC)での実践トレーニング演習を提供する。HiPTCでは、放射線事故被災者に対する緊急時医療と緊急時医療要員の教育訓練、環境放射能線量測定・評価訓練などのトレーニングを通して、リスク認知能力、リスクコミュニケーション能力などを身につけ、放射線防災能力を培う。さらに、連携機関である福島県立医科大学と福島大学との現地フィールド・ワーク、放射線医学研究所と放射線影響研究所が参加した連携大学院や、海外連携大学、国際機関IAEA

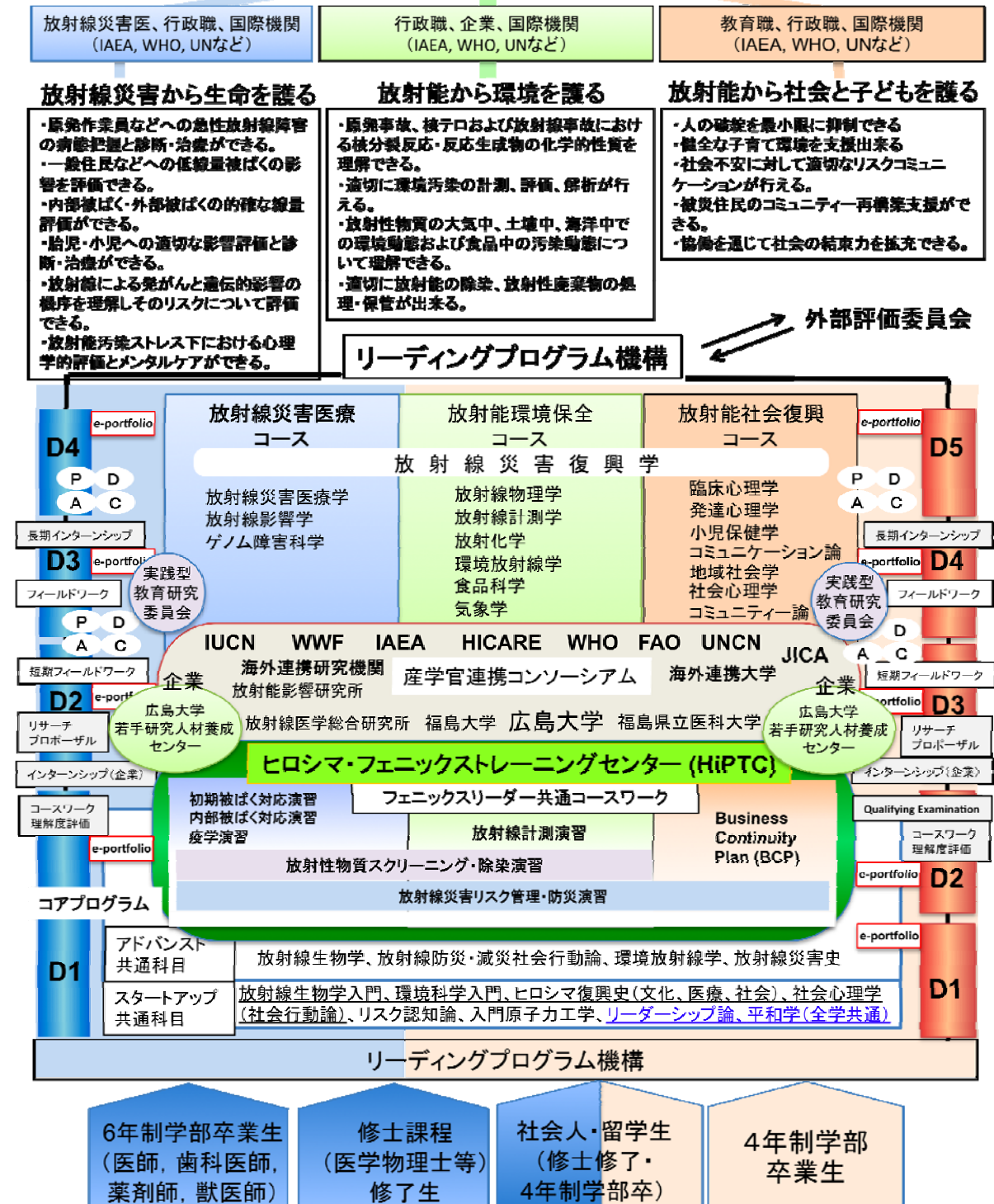
およびWHO、関連企業、地方自治体での国内外インターシップ等の実践教育を活用して、放射線災害に適正に対応し、明確な理念の元で復興に貢献できる判断力と行動力を有した、国際的に活躍できる分野横断的統合的グローバルリーダー(フェニックスリーダー)を輩出する。この人材育成を通して、放射線災害からの復興を牽引し、21世紀のモデルとなる、安全・安心の新社会システムの樹立に貢献する。



学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

放射線災害復興(ヒロシマ学)を推進するフェニックスリーダーの育成



機 関 名	広島大学
プログラム名称	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
[採択理由]	
<p>本構想・計画は、広島大学のこれまでの経験と蓄積を活かし、我が国の重要課題に取り組む、課題解決型の教育プログラムとして意欲的であり、広島、福島において取り組む課題として相応しく、特色のあるユニークな人材育成プログラムである。我が国で起こった原子力事故による災害の広範な課題を解決するために、プログラムを準備している点は時宜に適っており、国際機関や国内の研究機関、大学との連携・協力体制も既に確立されている点も評価できる。本プログラムの内容が、福島大学、福島県立医科大学など福島の教育研究機関とも共同で展開される必然性は、放射線に関する研究、教育研究の国際連携、医療実践、そして地域への貢献などの蓄積の面から見て、極めて高く、我が国にとっての意義も極めて深い。また、IAEA、WHOなどの国際機関との連携を一層強めていくことは、国際的なリーダーを育てる仕掛けとして評価できる。</p> <p>これまでの豊富な経験に基づいて、我が国が直面している課題を解決するための人材を育成しようとするプログラムであり、日本が世界の中で果たすべき役割を明確化し、世界に役立つ人材育成となることが期待される。</p>	